

## ニホンウナギの資源動向の把握に向けた調査

(予算区分 [受託] 研究期間 2021 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所 浜名湖分場 山本高宏

### 【研究の背景とねらい】

- ・近年のニホンウナギの漁獲量減少は国際的な問題であり、2013 年には環境省が絶滅危惧 IB 類に、2014 年には国際自然保護連合 (IUCN) が絶滅危惧 IB 類に指定するなど絶滅の懸念が示されている他、近年ウナギのワシントン条約 (CITES) 付属書掲載が検討されており、これらの措置が国内におけるウナギの流通に影響をおよぼす恐れがあります。
- ・この問題に対し、我が国はこれまで、IUCN レッドリストの見直しや CITES 動物委員会等の国際的な資源管理措置を取り決める場において、ウナギの資源動向に関する科学的なデータを元に議論を進めてきており、今後も有力な根拠を持って議論に望むため、資源動向の把握に寄与するデータを集積することが求められています。
- ・そこで、本研究では水産庁委託事業の「水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際水産資源調査・評価推進事業」に参画し、事業の中心を担う長野大学と共同で資源動向の把握・予測を目的として調査を進めています。
- ・毎年、調査河川において筒を用いて黄ウナギを採捕 (図 1) し、個体別に全長、体重等を測定するとともに資源動向の把握・予測に寄与するサンプルとして長野大学に提供しています。
- ・また、商業的に漁獲されるシラスウナギを入手し、個体別に全長、体重等を測定するとともに資源動向の把握・予測に寄与するサンプルとして長野大学に提供しています。

### 【これまでに得られた成果】

- ・現在、提供したサンプルは長野大学により遺伝情報が解析され、ウナギの資源動向の把握・予測が進められています。

### 【期待される効果】

- ・本研究で得られたデータは、IUCN レッドリストの見直し、CITES 動物委員会での規制検討、また水産庁が進める国内管理施策や国際的な資源管理体制の構築等において、ウナギの資源管理措置を取り決める際の有力な根拠となります。

### 【今後の計画】

- ・資源動向の把握・予測に寄与するサンプルを確保するため、黄ウナギ、及びシラスウナギの収集を継続します。



図 1 黄ウナギ採捕の様子  
及び採捕された黄ウナギ

(作成 2026 年 4 月)